

新型コロナウイルス感染症の影響による 国民健康保険税の減免

敦賀市国保年金課では新型コロナウイルス感染症の影響により、収入の減少が見込まれる世帯など一定の要件を満たす場合、国民健康保険税の減免を行っております。



【問合せ先】 国保年金課

TEL 0770-228120

ものづくり改善 インストラクター派遣事業

ふくい産業支援センターでは、生産効率、品質向上等の生産現場で抱えている課題に対し、インストラクターが中心となり経営者・現場の皆様の協力を得ながら改善提案を策定する『ものづくり改善インストラクター派遣事業』を実施しております。この機会に是非ご利用ください。



【問合せ先】

（公財）ふくい産業支援センター

TEL 0776-413775

消防団を応援するお店を募集

福井県内には約6,000人の消防団員が、昼夜を問わず地域の安全・安心のために活動しています。消防団員を応援するため、お店や事業所に「消防団応援の店」へ登録していただき、消防団員証等を提示した消防団員やその家族に対し、料金割引などのサービスを提供していただくものです。

【問合せ先】 福井県危機対策・防災課

TEL 0776-200310

夜間のこころの相談日

敦賀市健康推進課では、「不安で眠れない」「人とうまく付き合えない」「仕事や学校に行きたくない」など、こころの悩みを抱えている方の相談受付を行っています。

【日時】 9月17日（金） 18時～21時30分

※日中のこころの相談も月2回実施しています。（敦賀市HPに日程を掲載）

【場所】 健康センター「はぴふる」

【定員】 3名程度

【料金】 無料

【問合せ先】 健康推進課

TEL 0770-255311



ワクチン接種を希望される方へ

現在、県内・市内においても、コロナ感染者が急増しており、特にワクチン未接種の若年層の割合が増加している状況です。ワクチンには高い発症予防効果と重症化を防ぐ効果が認められています。詳細につきましては、敦賀市HPをご確認ください。

【問い合わせ先】 敦賀市新型コロナワクチン接種コールセンター

TEL 0770-245025



第4回 渋沢栄一コラム

現在放送中の大河ドラマ「青天を衝け」の主人公である渋沢栄一は、商工会議所の設立に関わり、商工業の発展に寄与されました。そんな渋沢栄一についてのコラムを連載します。

渋沢栄一とその思想に学ぶ 「渋沢栄一と同志たち」

渋沢栄一は、明治時代に約500の会社にかかわりましたが、実は、この「かかわり方」には、いくつかのパターンがあります。

1. 「設立委員」「創立委員長」といった形で最初からかかわり、その後社長（当時は頭取や会長という名称が一般的）や取締役として経営に加わったもの。今の帝国ホテル、東京海上日動火災、王子製紙などが代表例。
2. 監査役や相談役、ないしは特定の地位を持たない形で、経営の指導や援助を行ったもの。今の清水建設、七十七銀行などが代表例。
3. 基本的に出資者として参加したもの。今の古河機械金属、品川白煉瓦などが代表例。
4. 不振の会社の立て直しに入ったもの。今の東洋紡の前身の一つ三重紡績が代表例。

実際には、これらがいくつか組み合わせられた形で、彼は各々の企業に関与していきました。

もちろん、彼一人で多数の企業を同時に立ち上げたり、経営したりはできませんから、信頼できる仲間と役割を分かち合うこととなります。

それが浅野総一郎（浅野財閥創始者）、大倉喜八郎（大倉財閥創始者）、益田孝（三井物産創業者）、馬越恭平、（大日本麦酒社長、日本のビール王と呼ばれる）、大川平三郎（日本の製紙王と呼ばれる）などの錚々たる実業人たちでした。

彼らは、栄一の要請に応じて新しい会社に出資し、経営にかかわって会社を維持発展させたのです。そして彼らの多くには、実は一つ共通点がありました。

益田孝は1863年（文久3年）の幕府の第2回遣欧使節団に参加しています。彼はこのとき若干15才。渡欧したために益田明と名前を変えて、父の家来という名目で参加しました。

大倉喜八郎は1872年（明治5年）に民間人の立場で、初の私費での欧米視察に行きました。

さらに大川平三郎も1879年（明治12年）20才でアメリカに渡り、最新の製紙法を勉強しました。

浅野総一郎はやや遅く1896年（明治29年）に渡欧。いずれにせよ洋行経験があったからこそ、彼らは欧米で近代化の威力を実際に肌で感じていました。だからこそ栄一の目指す意図が理解でき、積極的に協力し続けたのです。

志やビジョンを共有できる同志たちがいたからこそ、栄一はあれほどの業績を成し遂げられたのです。

作家／グロービス経営大学院客員教授 守屋 淳

◇守屋 淳／もりや・あつし
1965年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。現在は作家として『孫子』『論語』『韓非子』などの中国古典や、近代の実業家の著作を刊行するかわら、グロービス経営大学院で教鞭をとる。著書に『現代語訳 論語と算盤』や『現代語訳 渋沢栄一自伝』、シリーズで『最高の戦略教科書 孫子』『マンガ 最高の戦略教科書 孫子』などがある。